

学校だよりBIG TREASURE

大きな宝

児童数 514名
発行責任者 栗東市立大宝小学校
校長 坂東 靖記
発行日 令和7年9月29日

後期がスタート ～運動会に向けて～

前期末の個別懇談会にご出席いただき、ありがとうございます。

ようやく暑さの和らぎを感じるようになり、学校では、先週から運動会に向けた取組をスタートさせました。児童会活動として、各クラスから出された意見をもとにスローガンを完成させました。また、各色の応援団員は、応援方法のアイデアを出し合いながら、準備を進めています。各学年においても、発達段階に応じて目標を設定し、個々の児童が力を出し切れるようにサポートしているところです。

9月13日から21日にかけて、東京で開催された世界陸上では、世界中から集まったトップアスリートが熱戦を繰り広げました。私も連日、テレビに釘付けになりました。

特に、印象に残ったことは、自分の限界に挑む姿と強い気持ちでした。

そしてもう一つは、それを支える仲間やコーチ、スタッフとの絆でした。特に、今回は観客席からの声援や拍手等の支えも、印象に残る大会でした。

男子110mハードルに出場した村竹ラシッド選手は、決勝で13秒18のタイムを記録し、5位入賞を果たしました。メダルにはわずかに0.06秒差で届きませんでしたが、日本勢としては過去最高位タイの快挙です。それでも、村竹選手は「たくさんの人に見守ってもらえて、一人のアスリートとして本当に幸せです。だからこそメダルを取って、みんなと一緒に喜びたかった。」と涙ながらに語り、支えてくれた仲間やスタッフへの感謝の気持ちを強く表していました。

もう一つ、私が今回印象に残ったのは、選手同士の支え合いです。男子棒高跳びで世界記録を更新したデュプランティス選手とライバル選手たちとの絆が大きな感動を呼びました。同選手が世界記録に挑む跳躍の間に、他の選手が彼に扇風機で風を送る場面や、他の選手が跳躍前の手拍子を観客に求める場面が映し出されました。そして、6m30cmの跳躍を成功させた直後、デュプランティス選手はライバル選手たちと抱き合い、互いに祝福し合う姿を見せました。勝敗を超えた友情とリスペクトを感じるこの光景は、競技の枠を超えた人間同士のつながりを象徴するものであり、感動でした。

競い合うライバルでありながらも、共に切磋琢磨する仲間だということ。たくさんの支えがあって競技や演技ができるということ。そして、その支えや応援に応えるためにも、自分の全力を尽くすということ。

これらは、子どもたちにも伝えたい大切な価値です。

運動会は、1年間で一番大きな学校行事と言えます。それは、全校児童が集まり、保護者や地域の皆様が応援に駆けつけてくださるからです。そのような場であることを子どもたちも分かっているのです、大いに張り切ります。この「頑張っている姿を見てほしい」という思いが、子どもたちのパワーの源です。

ご家庭におかれましても、結果ではなく頑張る気持ちを支えていただくとともに、切磋琢磨できる仲間の存在についてもお話いただけると幸いです。

～PTA活動としても、子どもの頑張りを支えてくださっています。～

今年度、PTA会費でテント3棟を購入していただきました。これまでは他の施設から借用していましたが、今後はその必要がなくなりました。また、運動会当日は不審者対策として、PTA役員様に橋のところで立哨いただきます。運動会の参観には、『保護者証』の提示が必要となりますので、当日、お忘れのないようお願いいたします。運動会『保護者証』についての詳細は、後日お伝えします。